

Cartoon says it all.

マンガをみれば世界がわかる

毎日新聞専門編集委員
西川恵



Sarkozy Campaign
by Frederick Deligne,
Nice-Matin, France
February 23, 2012

メルコジ体制は続くか？

フランスのサルコジ大統領は英国とドイツを使い分けて「フランスの力」を演出してきた。英国とは安全保障分野での協力、経済分野ではドイツとの連携。前者は一年前の、リビアのカダフィ政権に対する空爆が好例だ。キャメロン英首相と国際社会を説得し、国連決議で空爆容認を勝ち取った。

リビア問題が一段落するのと入れ違いに深刻になったユーロ危機では、メルケル首相との二人三脚が際立っている。自分が欧州を仕切っていると見せたい大統領と、他国から「傲慢なドイツ」と警戒心を抱かれないよう、自らの役割を小さく見せたい首相。メルコジと称されるコンビだ。

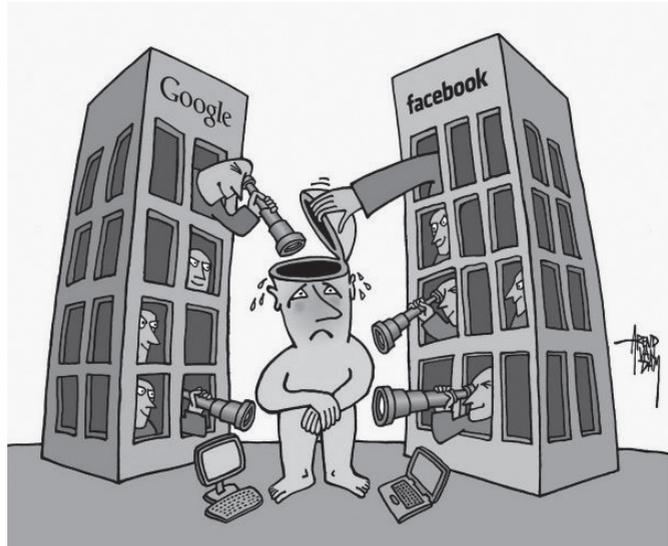
そしてメルケル首相は、サルコジ大統領の選挙応援団長も買って出た。リップサービスの域を越えた肩入れで、他国への内政干渉との声にも「私たちは家族政党。応援は当然」と切り返した。でもサルコジ大統領は社会党のオランダ候補にリードを許している。オランダ氏が勝ったら仏独関係はどうなるのだろうか。

ネット空間とプライバシー

「アラブの春」など世界の民主化を押し進めているツールは、一方でプライバシーを丸裸にされかねないリスクとも背中合わせである。

米国のIT企業のグーグルは個人情報電子メールや交流サイトなど個別のサービスごとに管理していたが、三月一日から六〇に上るサービスごとの個人情報を一つにまとめた運用を開始した。グーグルは「利用者の利便性が高まる」と説明するが、ハッカー攻撃を受けた場合、甚大な影響を被る懸念がある。

世界最大のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のフェイスブックの特徴は、実名や住所など個人情報を公開してやりとりすることだ。個人情報を公開するため人となりがりやすくなるが、サイバー犯罪の標的にもなりやすい。ユーザーからパスワードを盗み出すオンライン詐欺も多い。情報の自由なやりとりを守りつつ個人情報はどう保護するか、時に二律背反のような難しい時代にわれわれはいる。■



internet privacy By Arend Van Dam,
politicalcartoons.com
February 2, 2012